

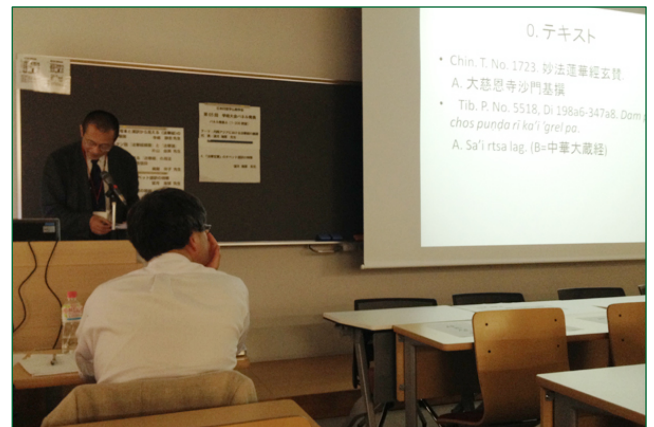


日本印度学仏教学会第 65 回学術大会 報告

2014年8月30(土)～8月31日(日)まで武蔵野大学有明キャンパスにおいて開催された日本印度学仏教学会第65回学術大会において身延山大学仏教学科の教員、並びに身延山大学東洋文化研究所の研究員による研究発表が行われた。

<個人発表>

1. Dīpaṃkaraśrījñāna の Ekasmṛtyupadeśa について
望月 海慧 (身延山大学教授)
2. コンチュルの『大中観他空説手引』について
槇殿 伴子 (身延山大学東洋文化研究所研究員)
3. 義寂釈義一撰『法華経論述記』について
金 炳坤 (身延山大学特任講師)
4. 豪商茶屋家の法華信仰
望月 真澄 (身延山大学教授)



【望月海慧教授のパネル発表】

<パネル発表>

テーマ：内陸アジアにおける法華経の展開

代表：望月 海慧 (身延山大学教授)

1. 梵語古写本と漢訳から見える《法華経》の成立と展開
辛嶋 静志 (創価大学国際仏教学高等研究所教授)
2. コータン語『法華経綱要』と『法華論』
片山 由美 (日本学術振興会特別研究員)
3. チベットにおける『法華経』の用法—一乗思想と観音信仰—
槇殿 伴子 (身延山大学東洋文化研究所研究員)
4. 『法華玄賛』のチベット語訳の特徴
望月 海慧 (身延山大学教授)
5. 西域出土法華章疏の諸相
金 炳坤 (立正大学法華経文化研究所研究員)



【斎藤明理事長より学会賞を受賞する金炳坤特任講師】

<日本印度学仏教学会賞受賞>

日本印度学仏教学会は、印度学及び仏教学の発展を目指すとともに、世界の学者とも連携し、世界文化の進運を目的として1951年に創立された会員数2,400余名を擁する日本最大の人文社会系学会である。

1958年以来、毎年、数名の若手研究者に、その研究成果を賞して贈られる日本印度学仏教学会賞は、これまで217名が受賞(歴代受賞者一覧)している。

本年度は、本学の**金炳坤特任講師(博士(文学))**が受賞した。受賞対象論文は下記の通りである。

「**憬興撰『法華経疏』の逸文について**」『印度學佛教學研究』62(1), 508-503, 2013-12-20.

本学所属の教員としては、望月海慧教授(2001年・No. 174)以来4人目であり、韓国籍の研究者としては、金知見博士(1970年・No. 52)、韓泰植博士(1990年・No. 140)に次ぐ3人目の受賞者である。

日本印度学仏教学会理事
望月 海慧